水産学部端艇部

呼吸を合わせて前に進む チーム競技がはぐくむもの

男子部長の和泉匠真さん（水産学部3年）、女子部長の染谷茉里さん（水産学部2年）。高校では和泉さんはラグビー部、染谷さんは吹奏楽部に所属。大学からカッターを始めました。

カッターボート（端艇）競技は、船舶の緊急避難時の訓練から派生したスポーツです。水産学部では、必修講義としてカッターボートを使った海洋訓練が行われていた時代があり、端艇部の部員も水産学部生のみで構成されています。

2023年の新人戦、端艇部は男女アベック優勝という記憶に残る結果を出しました。勝因について、男子部長の和泉匠真（いずみしょうま）さんは次のように語ります。「同じピッチで漕がなければスピードが落ちてしまう、団結力がものをいうスポーツです。新人戦では1年生12人で漕ぎ手をそろえ、メンバーの仲の良さが際立つ試合になりました。強かった頃の先輩が残してくれたメニューを参考にしながらも、さらに筋力を高める練習などを意識し、それに耐え抜いたことが大きな勝因だったと思います」。

大村湾を拠点に練習に励む男女端艇部（写真は男子）。船には艇長と艇指揮を含む男子12人、女子8人が乗船。全員が呼吸を合わせる点は同じですが、船の大きさが異なるため練習内容はそれぞれです。

女子部長の染谷茉里（そめやまり）さんにも勝因を聞きました。「分析力の高さです。毎回動画を撮影し、それをもとに分析します。漕ぎ方に正解はないので、お互いの良いところや悪いところを指摘し合える関係も勝因の一つだと思います」。

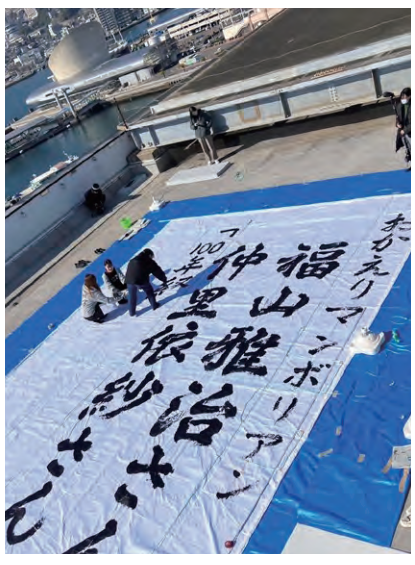
個の能力だけでは前進しないカッターボート。そこにはチーム競技の醍醐味があります。「部には監督やコーチがいません。先輩から受け継いできた練習メニューを参考にしながら、海況に合わせた漕ぎ方の研究などメンバー全員で課題をクリアしてきました。先輩たちと一緒に掴み取った賞でもある。そう思っています」。

洋上を舞台に伝統をつなぐ戦いは、強い絆もはぐくんでいます。

時津港での練習風景。

書道部

書道には地域を 元気にする力がある!



皇帝パレード前日にメッセージを製作。雨が降っても文字が消えないように、ペンキを使用しました。

広報担当の境千晴さん（医学部保健学科3年、左から2人目）。

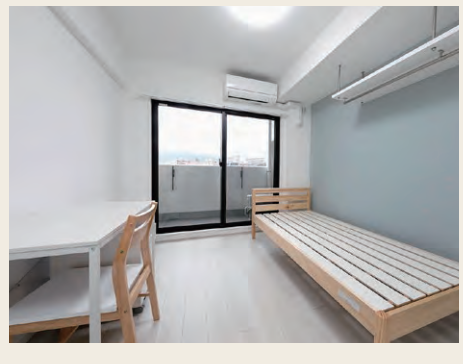
鴻洋祭で披露した作品。大きな作品の場合、台紙の準備など事前作業に時間を費やします。

全学サッカー部の横断幕や受験生向けの応援メッセージなど、書道部の元には様々な依頼が舞い込んできます。5月に行われた水産学部学園祭「鴻洋祭」では、晴れ渡った空の下、今年のテーマ“海晴”の文字が完成。見学に来ていた地域の皆さんから、たくさんの拍手が送られていました。「練習の成果や広報活動が、ご依頼につながっていると思います。作品を見てもらえることは活動の励みになります」と広報担当の境千晴（さかいちはる）さん。

今年2月、長崎ランタンフェスティバルに福山雅治さんと仲里依紗さんが登場した際にも、書道部が活躍しました。JA長崎から依頼を受け、巨大な布製の垂れ幕に書いたお二人へのメッセージが、地元テレビ局のニュースに取り上げられたのです。書道部の公式Xにもたくさんの反響があったそうです。「当日の朝、垂れ幕を投稿したところ、たくさんのいいねとリポストをいただきました。ほかにも長崎県庁で行われたイベントなど、学外からご依頼をいただく機会が増えています」。

書道には地域を盛り上げる力がある。活動の場が外へ広がれば広がるほど、新しい気づきと自信を実感している書道部の皆さん。これからも期待に応え地域を盛り上げるために、一筆一筆の仕上がりに磨きをかけます。

［TOPICS］

「Uni E’terna長崎文教グローバルハウス」2024年3月完成

長崎大学文教キャンパス構内に全305室の国際学生宿舎「Uni E’terna（ユニエターナ）長崎文教グローバルハウス」が誕生しました。充実した設備が整った学生宿舎となっており、特集で紹介したサークルの学生も入居しています。安全・安心な環境のもと構内からの快適な通学で、勉強や運動に打ち込むことができる環境です。